

高二 古文

第十回 小テスト

出題範囲

古文単語

330

136 から

150

注意事項

- ① 質問があれば高木まで。
- ② 終了したならば、
提出して帰る。
- ③ 私語・カンニングは未受験。



STUDY COLLABO®

単語・文法小テスト

氏名

点数

1 次の傍線部の口語訳として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 かの廂に敷かれたりし物は、さながらありや。(大和物語)

- ①どこでも ②どのくらい ③そんなに ④そのまま

1
〔 〕

2 「この殿の御心、さばかりにこそ」とて、その後は参らざりける。(徒然草)

- ①そうでない ②その程度 ③口ばかり ④そういう意味

2
〔 〕

3 例のいと忍びておはしたり。(源氏物語)

- ①うわさのように ②いつものように ③かつてのように ④そのように

3
〔 〕

4 いざたまへ、出雲拌みに。(徒然草)

- ①さあ、行ってください ②さあ、一緒にいらっしやい ③さあ、いつものように

しましうか

4
〔 〕

④さあ、どう

5 知らぬ人の中にうち臥して、つゆまどろまれず。(更級日記)

①少しも眠ることができない ②ゆっくり眠ることができない ③早く眠ることができない ④ほとんど眠ることができない

6 正直の人、などかなからむ。(徒然草)

①やはり ②もう ③どうして ④そんなにも

7 今は逃ぐとも、よも逃がさじ。(宇治拾遺物語)

①まさか逃がさないだろう ②今度こそ逃がさないだろう ③当然逃がさないだろう ④わざと逃がさないだろう

8 奈良坂にて人にとられなばいかがせむ。(更級日記)

①意外だろうか ②当然だろうか ③なぜだろうか ④どうしようか

9 淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたる例なし。(方丈記)

①しだいに ②一方では ③常に ④むやみに

9 〔 〕

8 〔 〕

7 〔 〕

6 〔 〕

5 〔 〕

10 むなしう帰り参りたらんは、なかなか参らざらんよりあしかるべし。
(平家物語)

①かえって

②まったく

③すぐに

④おそらく

10

ハ

┌

